

海坊主の海想記

ガラサーミーバイ

丘に上がった海坊主

ガラサーミーバイと聞いて、何を連想しますか？ ミーバイとあるから、ハタの仲間のようですが、さて？

他にミーバイと呼ばれるものは、イシミーバイ（カンモンハタ）、シャッコウミーバイ（ナミハタ）、ユダヤミーバイ（マダラハタ）、アラミーバイ（アカマダラハタ、ヤイトハタ）等、呼び方は地域により変わりますが、沖縄では高級魚です。

その前に、ガラサーって何？ と思いませんか。他のミーバイも変わった意味不明の名前がついていますが、カラスという意味があるようです。たとえば、カーミー（亀）でガラサーという、これは、タイマイ（べっ甲）のことを言うそうです。確かにアオウミガメの口よりタイマイの口は黒く尖っています。アオウミガメは何か鼻が低いような感じです。それよりも一番大きく違うのは、甲羅です。タイマイは、ご存知のようにべっ甲細工に使う原料になります。甲羅は瓦のように、一枚一枚独立して重なっています。アオウミガメは、タイルの目地のように筋が入っている感じです。

話がそれましたが、答えは、イシガキダイです。磯釣りでは、イシダイと並び非常に人気のある魚です。食用としてもとても美味しい魚で、高値で取引されているようです。

外房や伊豆などで海水浴や素潜りをしていると、イシダイやイシガキダイの稚魚が、人にまつわりつくように寄ってきて、体を突いたりしてることがあります。とても可愛いポピュラーな魚です。よく捕まえては、水槽で飼っていました。成長も早く丈夫な魚です。

思い起こせば、こんなことがありました。

20cm位に成長したイシガキダイ。手持ちの水槽では狭くなってしまいました。可哀想だなと思いつつ、日々をおくっていましたが、ある日仕事から帰ってきたら、そいつがいなかったのです。水槽の周りを探しました。しかし、どこにも干からびた物体はありませんでした。

母に聞いたところ、なんと、今晚の刺身になっていました。“水槽から飛び出して息絶えていた”との事でした。その晩は、美味しく頂

きました。これも運命でしょう。

こんな馴染み深い魚ではありますが、八重山では非常に珍しい魚で、10年間の海人生活で2匹だけしか、獲ったことがありません。ちなみにイシダイにいたっては、一度も見たことも、獲ったという話も聞いたことがありません。沖縄では、八重山よりは、多く見られるようです。（沖縄では、イシダイも釣れたという記録があるようです）

生息地として、本州中部以南から亜熱帯地方で、イシダイよりイシガキダイのほうが、より南方系であるようです。しかし、八重山周辺で、生息しているとは、どうにも思えないのです。ほとんど毎晩10年間泳いで、稚魚など見たことも無いのです。（まだまだ経験が足りないのか、昼間なら見えるのか）よく、内地まで黒潮に乗ってくる熱帯魚はいるけど、潮に向かって南下してくる魚とは聞いたことがないし、まったく不思議です。

昔は、モンガラカワハギも稚魚がなかなか見つからず、謎の魚だったようですが。

初めて、八重山でイシガキダイを見たときは、驚きました。本当に泳ぎながら叫びました。“うそ～こんなものいるんだ”と。

先輩海人に聞くと「たま～に、獲れはするサ～。でもかなり珍しいな」と言っていました。

カラスのようなくちばしで、バリバリとサザエやカニやイセエビなんかも食べている様子が目に浮かびます。

でも、カラスは黒い口ですが、イシガキダイは大きくなると白くなり、“クチジロ”と呼ばれるそうです。90cmにもなるほど大きくなるようです。

そんな大物と出会ったら、さぞかし楽しい一日になっていたと思います。

しかし、なぜミーバイ？

まあ、魚の分類学ではないのだから、いいか？

ちなみに一匹は白保の海、もう一匹は多良間島の南側で獲りました。

二匹共、30cmもない小型のものでした。

